

大門だより

No. 8
(446号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和3年12月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「 音楽会 」

副校長 鈴木 竜也

12月と言うと、メディアなどでは「師走になって慌ただしくなりました」と表現することがあります。昔の日本では年末になると、家に僧侶を呼んでお経をあげてもらう風習があったそうです。そのため、年末は「師（僧侶）」が忙しく走り回る時期であることから、「師走」というようになったとされ、この説が有力とされています。

二学期は保護者の皆様の御理解と御支援もあり、多くの行事を行うことができました。運動会、清里移動教室、特別支援学級合同遠足、消防署見学、下田臨海代替行事、生活科実習（いもほり）、下田移動教室、そして11月26日、27日に行われた音楽会です。感染症対策のため歌唱（合唱）はせずに器楽（合奏）のみでしたが実施することができました。

1年生は初めての音楽会でした。《こいぬのマーチ変奏曲》は、「元気なこいぬ」「踊るこいぬ」「悲しいこいぬ」といった情景の移り変わりを、素敵に表現していました。

3年生のリコーダー合奏《ソラシドマーチ》は、初めて手にしたソプラノリコーダーを、息の使い方や指の動かし方に注意しながら丁寧に吹き、二つのメロディの重なり合いもきれいに響いていました。

のぎく学級の《にじ》は、演奏だけではなく手話で歌を表現するなど、多彩な音楽表現で楽しませてくれました。

5年生の《スター・ウォーズ》は、シンセサイザーの壮大な旋律と打楽器の力強さ、鍵盤打楽器のリズミカルさ、リコーダーや鍵盤ハーモニカの繊細さ、これらの音の重なりが生み出す重厚な響きが、映画の世界を上手く表現していました。

箏クラブの演奏は、和楽器のもつ繊細な音が、会場に緊張感のある響きを醸し出していました。《おどるポンポコリン》の合奏は、原曲とはひと味違った雰囲気でも楽しく聴かせてくれました。

2年生の《Under the Sea》は、シンコペーションを拍の流れにのせてリズム良く表現していて、ディズニーミュージックの世界に浸らせてくれました。

4年生の《Paradise Has No Border》は、スカの響きを器楽合奏で上手に再現していました。旋律（メロディー）と低音（ベース）の掛け合いが格好良かったです。

6年生の《優しいあの子》は、いくつもの旋律が重なり合って、柔らかな響きを表現していました。また《シング シング シング》は、付点やシンコペーションなどの複雑なリズムを上手に表現していました。パーカッションセクションの安定感、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、鍵盤打楽器の掛け合いも華やかに聴かせてくれました。

キーボードセクションのソロや旋律の崩し方も素敵でした。最後まで集中して練習した成果です。

今年度は在籍学年のみの鑑賞で、完全入れ替え制で行いました。本来であれば全部の演奏を聴いて頂きたかったところですが、感染症対策もあり、それを実現できなかったことは大変申し訳ございませんでした。是非、お子様から自分たちの演奏や他学年の演奏についてお話を聞いていただくと幸いです。

三学期も本校の教育活動への御理解と御支援を賜りますよう、どうぞよろしく願い致します。

